



第71回カンヌ国際映画祭
短編コンペティション部門 正式招待作品

どちらを選んだのかは
わからないが
どちらかを選んだことは
はっきりしている

カンヌ国際映画祭 正式出品記念上映会

短編映画「八芳園」 短編映画「父 帰る」

短編映画「どちらを選んだのかはわからないが、どちらかを選んだことははっきりしている」

監督

c-project 佐藤雅彦 / 関友太郎 / 豊田真之 / 平瀬謙太郎

日時

2018.10.12 [金] 18:00 (開演 18:30)

場所

東京藝術大学 奏楽堂 (大学構内)

FREE / 入場無料 事前予約制

申し込みは9月10日(月)9:00より開始

主催 東京藝術大学





短編映画「八芳園」

上映時間 12 分

＜第 67 回カンヌ国際映画祭 短編コンペティション部門 正式招待作品＞

我々は、人生においてごく稀に「どう振る舞えばいいのか分からない局面」に遭遇することがある。どのような顔をしていけばよいのか。何を話せばいいのか。どのように時間を過ごせばいいのか。それが分からないのだ。この作品は、日本の結婚式の最中に生まれるそのどうしようもない時間帯を、ある特殊な手法によって表現した映画である。

脚本・監督：佐藤雅彦 / 関友太郎 / 豊田真之 / 平瀬謙太郎 / 大原崇嘉



短編映画「父 帰る」

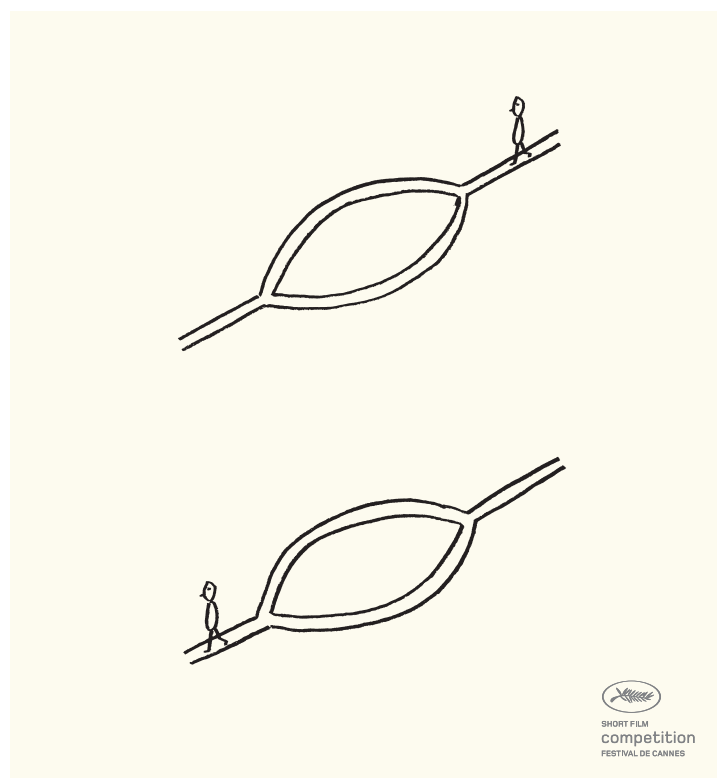
上映時間 34 分

これは、意図して、実際に行われた映画のキャスティング・オーディションの記録映像を編集して作られた劇映画である。

そこで語られるのは、ある家族の物語。家を出て行った父と、残された長男、次男、長女、そして彼らの母。そんな一家に訪れたある宿命的な一夜の物語を、総勢 63 名の役者が演じる。

この手法は、映画の新たな可能性としての文学的表現へのアプローチであると同時に、この家族の物語が、誰にでも（あなたにも）置き換え可能なものかもしれないということを示唆している。

監督：佐藤雅彦 / 関友太郎 / 豊田真之 / 平瀬謙太郎



短編映画

上映時間 14 分

「どちらを選んだのかはわからないが、
どちらかを選んだことははっきりしている」

＜第 71 回カンヌ国際映画祭 短編コンペティション部門 正式招待作品＞

実の父を知らずに育った息子と、その父に会うかどうかを選ばせようと旅に誘った母。

その道中、さながら人生のように二人の前には些細なものから重要なものまで様々な選択肢が現れる。しかし、この映画で提示されるのは選択肢だけであり、決して親子が選んだ結果は示さない。どちらを選択したとも解釈し得る表現で、物語は先へ先へと進み、物語は常に選択の数だけ「可能性」を抱えたまま進行していく。

そんな従来にはない物語構造が、選択を経て新しい段階に入る親子関係を描き出す。

黒木華 吉沢太陽 柳楽優弥

脚本・監督：佐藤雅彦 / 川村元気 / c-project

製作：クラフター / 東宝 / 博報堂 / ギークピクチャーズ

c-project 佐藤雅彦 / 関友太郎 / 豊田真之 / 平瀬謙太郎

東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻 佐藤雅彦教授を中心に、佐藤雅彦研究室 5 期生メンバーによる映画制作プロジェクト。「映像手法がテーマ性を担う」というコンセプトのもと、新しい映画表現の開拓を目指し活動している。2014 年、初のプロジェクト作品「八芳園」をカンヌ国際映画祭短編コンペティション部門へと送り込む快挙を成し遂げ、2018 年「どちらを選んだのかはわからないが、どちらかを選んだことははっきりしている（英題:Duality）」にて、再びカンヌ国際映画祭短編コンペティション部門で正式招待を受けた。

